

## 重点目標達成に迫るための具体的な手立て

～前期自己評価委員会 検討結果の重点～



前期自己評価委員会（7月25日）では、1学期の教育活動について、児童自己評価、学校関係者評価（保護者、学校運営協議会委員）に基づいて、各学年団・各部で十分な時間を取って振り返り、改善策を検討した。

改善策が広範囲になったため、後日（9月4日）、検討した改善策をを絞り込み、手立てを明らかにして重点化した。



このことについて十分理解し、全職員、一丸となって後期の教育活動を推進していきましょう。

### 《学年団》

低学年（1・2年）	「個性尊重」の自己評価をあげるために、行事の後や授業、朝の会、帰りの会などによいことを見つけをする。 ・月に1回以上行う。 ・口頭で伝えたり、紙に書いて残したりする。
中学年（3・4年）	教師や友達と話すときに、礼儀正しく接することができない児童が多い。挨拶がコミュニケーションの第一歩であることを意識付けるために、率先して教師から児童に挨拶し、会話を始める習慣をつくる。また、児童にも挨拶をしてから会話をするよう粘り強く声を掛けていく。
高学年（5・6年）	互いの個性を認め合うことが苦手な児童が多いので、他者に目を向けたり、当たり前を褒め合えたり、自己肯定感をあげたりできるように、道徳の授業の最初5分程度で、4人程度のグループを作り、自分以外の3人に感謝を順に伝える活動を取り入れる。

## 《やさしい子・進んで学習する子・元気子》

やさしい子	どの学年においても「おはよう」以外の挨拶や返事ができない児童が多い。また、「おはよう」の挨拶についても、「相手の目を見て」「心を込めて」などの課題がある。そこで、各学年で毎月「ポプラっ子あいさつ・返事カード」を活用して挨拶の重点項目を決める。挨拶の重点項目は児童の実態に応じて、「おはようございます」「さようなら」と「それ以外の挨拶を3つ」に絞る。そして、毎月最終日に各学級で挙手による振り返りを行い、次月のよりよい挨拶の改善に生かしていく。
進んで学習する子	自分の話したいことを優先し、友達の意見を聞くことが苦手である。他学年の授業の聞き方・話し合い方・話し方を見学することを通して、自分に生かしたいこと・頑張りたいことを明確にし、その後に生かせるようにするために、月1回程度1学年上の学年の授業の様子を10分程度見学に行き、各クラスで振り返りを行う。
元気な子	落ち着いた生活をするための手立てとして実施している「こころの天気アンケート」への取り組み方に各学年の温度差があり、アンケートの集計結果を子供にフィードバックして活用できていない実態がある。そのため、毎月第1月曜日の朝活動で「こころの天気アンケート」に取り組むよう位置づけ、その結果を火曜日に各学級で共有・振り返りをする時間を設ける。

